

平成 20 年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	指導	題名	非主食用品種「岩南29号」および「岩手85号」の施肥法		
<p>[要約] 粗玄米収量で 750kg/10a 確保を目標とすると、「岩南 29 号」の施肥体系は、窒素成分で基肥を「ひとめぼれ」より 2~3kg/10a 多い 8~9kg/10a とし、6 月中旬頃の分けつ期と幼穂形成期にそれぞれ 2kg/10a 追肥する。</p> <p>「岩手 85 号」の施肥体系は、窒素成分で基肥を「あきたこまち」より多い 6~9 kg/10a とし、必ず幼穂形成期に追肥を 2kg/10a 実施する。</p>					
キーワード	イネ	品種	栽培法	技術部作物研究室 県北農業研究所作物研究室	

1 背景とねらい

近年、本県に適応するバイオエタノール用や飼料用に利用できる多収品種「岩南 29 号」および飼料用米品種「岩手 85 号」を育成してきた。そこで、「岩南 29 号」と「岩手 85 号」の栽培事例を整理し、施肥法を明らかにする。

2 成果の内容

粗玄米収量で 750kg/10a 確保を目標とした施肥法は以下のとおりである。

(1) 岩南 29 号 (図 1、表 1)

ア 380~460 本/m²の穂数が確保された場合に目標収量 750kg/10a を上回る事例が多い。当品種は玄米千粒重が重く、偏穂重型であるが、穂数 350 本/m²以下では低収となる場合がある。耐倒伏性は“強”であることから、基肥を増量し、分けつ期追肥により初期分けつの発生を促進することが重要である。

イ 施肥法は、窒素成分で基肥は「ひとめぼれ」より 2~3kg/10a 多い 8~9kg/10a とし、6 月中旬頃の分けつ期と幼穂形成期にそれぞれ 2kg/10a 追肥する。

(2) 岩手 85 号 (図 2、表 2)

ア 穂数が 450~550 本/m²で倒伏程度 3 未満の場合には目標収量 750kg/10a と同等かそれ以上になる。そのため、基肥の増量により穂数を確保し、幼穂形成期以前の追肥は倒伏の危険が高まることから施用しない。

イ 施肥法は、窒素成分で基肥は「あきたこまち」より多い 6~9kg/10a とし、必ず幼穂形成期に追肥を 2kg/10a 実施する。

3 成果活用上の留意事項

(1) 本結果は農業研究センター、同県北農業研究所、現地奨励品種決定試験の栽培事例を用いた。

(2) 大豆作後など作付前歴、土壌条件を考慮し、施肥量を調整すること。

(3) 「岩南 29 号」のいもち耐病性は“やや強”であるが、基本防除に努める。

(4) 「岩手 85 号」は倒伏防止のため、十分に中干しを実施する。

(5) 「岩手 85 号」はいもち病真性遺伝子型が“*Pia, Pib*”と推定され、葉いもちは“強”、穂いもちは調査中であるため、基本防除に努め常発地では必ず防除する。

4 成果の活用方法等

(1) 適用地帯又は対象者等 普及センター、JA などの指導者

(2) 期待する活用効果 飼料用米など多用途米の低コスト安定生産

5 当該事項に係る試験研究課題

(15) 生産力検定試験 (S58~H22, 令達)

(803) 水稻奨励品種決定調査 (H14~H22, 県単)

6 研究担当者 菅原浩視、及川あや、吉田宏

7 参考資料・文献

(1) 平成 10~12 年度水稻新品種育成試験成績書 (農産部銘柄米開発研究室) 岩手県農業研究センター

(2) 平成 13~20 年度水稻新品種育成試験成績書 岩手県農業研究センター (一部未定稿)

(3) 平成 16~19 年度水田作研究室成績書 岩手県農業研究センター

(4) 平成 19, 20 年度試験成績書 岩手県農業研究センター県北農業研究所 (一部未定稿)

8 試験成績の概要（具体的なデータ）

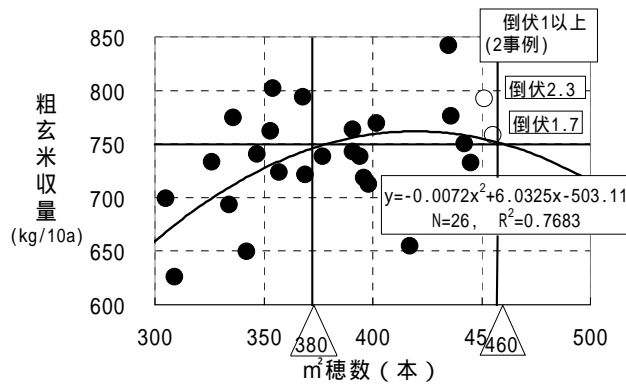


図1 岩南29号の m^2 穂数と粗玄米収量の関係
(平成10~14, 16, 17, 20年、農研・北上)

表1 岩南29号の施肥と粗玄米収量(平成14, 16, 17, 20年、農研・北上)

年次	窒素施肥量 (kg/10a)				稈長 (cm)	m^2 穂数 (本)	倒伏 (0~5)	粗玄米収量 (kg/10a)
	基肥	分けつ	穂首	減分				
平成14年	6	2	2		84.2	354	0.0	802
平成16年	6	2	2		84.4	336	0.0	775
	9	2			88.7	368	0.0	794
平成17年	6	2	2		83.9	436	0.0	776
	7	1×5回			90.0	435	0.0	842
	9	2			89.2	377	1.7	738
平成20年	9	2	2		89.2	402	0.5	766
	9	2	2	2	92.2	455	1.7	758
	9	2	2	2	97.1	451	2.3	792

平成20年：分けつ期：6/10、穂首分化期：6/30

網掛け：推奨する施肥例

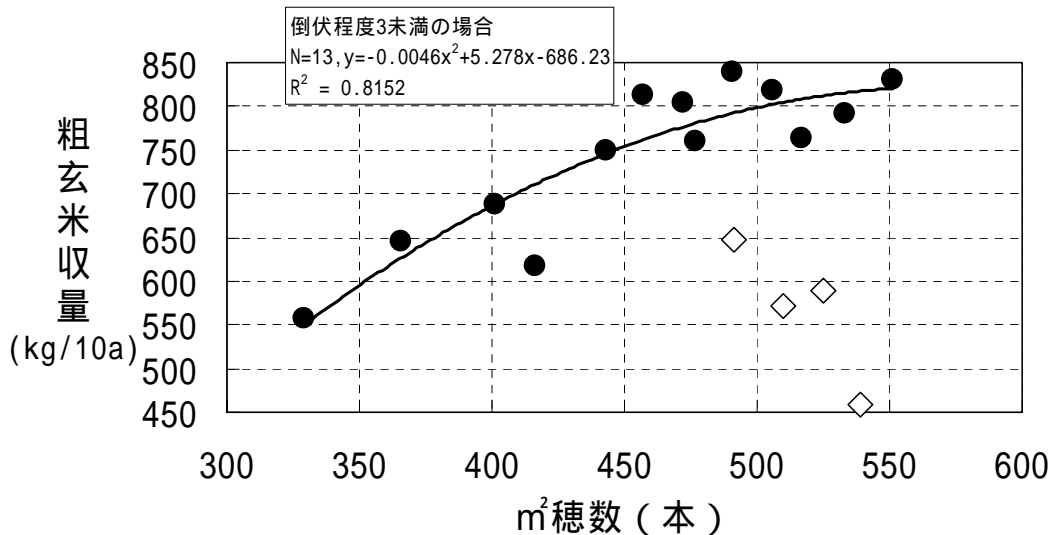


図2 岩手85号の m^2 穂数と粗玄米収量の関係
(平成19, 20年、県北農業研究所軽米・二戸・八幡平現地)
倒伏程度3未満、倒伏程度3以上(4事例)

表2 岩手85号の施肥と粗玄米収量(平成20年)

場所	移植日 (月/日)	窒素施肥量(kg/10a)				稈長 (cm)	m^2 穂数 (本)	倒伏 (0~5)	粗玄米収量 (kg/10a)
		基肥	分けつ	幼形	減分 穂揃				
県北研究所・ 軽米	5/21	6		2		88.1	457	0.4	813
		8		2		90.8	472	0.4	805
		9		3		89.5	506	1.3	817
		9		3	3	88.6	491	2.2	839
		12*				74.8	366	0.0	646
		12				85.7	477	0.2	760
		12		3		92.4	551	2.2	831
	5/30	9		3		88.6	517	0.5	764
八幡平**	5/20	6	2	2		101.7	524	4.0	589
		6		2	2	106.0	491	4.5	647
		6	2	2	2	104.9	510	5.0	572

分けつ期：6/28

*全量鶏ふん

**堆肥2000kg/10a投入

網掛け：推奨する施肥例